

震災直後の状況知って

東日本大震災後に避難所になった仙台市若林区の六郷中で4日、当時の様子を振り返る集会があった。3年生と卒業生が震災翌年に入学した1、2年生に学校がどんな状況だったかなどを伝えた。

仙台・六郷中

全生徒388人が出席した。3年生代表の前生徒会副会長板橋ゆかりさん(15)は、2011年4月の入学当初はパンと牛乳だけの簡易給食だったことを取り上



3年生を代表して後輩にメッセージを贈る板橋さん

げた。「当たり前と思っていた。日常生活の大切さに気付けた。多くの皆さんから支援けるスローガン」がんばろ

をいたなき、つらいことばかりではなかった。震災と向き合い、東北の未来を担っていきましょう」と呼び掛けた。

卒業生ら後輩に伝える

うーみんなぞつなぐ、地域の輪」を考えた卒業生4人も参加した。メンバーの一人で、炊き出しや給水を手伝った仙台東高3年鈴木かの子さん(19)は「同学年には家が流された友達もいた。生きていることが幸せだと実感した日々でした」と語った。

六郷中は11年7月上旬まで体育館と武道館が避難所となり、津波被害を受けた学区内の藤塚、井土、三本塚各地区などの被災者が身を寄せた。

集会には先立ち、交流のある北海道旭川市啓北中から贈られたエゾヒガンザクラを生徒会役員が校舎正門に植樹した。

①東日本大震災直後、六郷中学校ではどのような給食でしたか？

②板橋さんは、震災を通してどのようなことが大切だと気付くことができましたか？
また、あなたはそこをどう思いますか？

年 組 名前